

第 8 回 福原地区

川合市長と語り合うタウンミーティング

日時：平成 21 年 7 月 8 日（水）

午後 6 時 30 分～ 8 時 30 分

場所：川越南文化会館（ジョイフル）

対象地区町字名

大字下赤坂、大字中福、大字上松原、大字下松原(川越市役所高階出張所の所管区域を除く。)、大字今福、大字砂久保(川越市役所高階出張所の所管区域を除く。)、中福東、むさし野の一部

参加者

1 性別

男 性	55
女 性	8
無回答	0
合 計	63

2 年齢別

	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	無回答	計
男 性	0	0	0	1	15	27	12	0	55
女 性	0	0	0	2	2	3	1	0	8
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	3	17	30	13	0	63

3 職業別

	学生	会社員 公務員	自営業	主婦	農業	その他	無回答	計
男 性	0	6	8	0	17	24	0	55
女 性	0	3	0	4	0	1	0	8
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	9	8	4	17	25	0	63

出席者

市長、大野副市長、石川副市長、広報監、総合政策部長、総務部長、市民部長、福祉部長、環境部長、都市計画部長、建設部長、教育総務部長

意見数

1 会場

発言者数... 1 2 人

意見内容

分 類	件数	内 容	頁
教育・文化	1	・発達障害の子ども達の教育について	9
道路・交通	7	・道路冠水対策について	3
		・道路排水整備について	3
		・路上駐車対策について	8
		・通学路の安全対策について	9
		・道路整備（水たまり対策）について	1 0
		・道路整備（水たまり対策）について	1 0
		・通学路の安全対策について	1 1
環境・衛生	2	・ごみの山対策について	6
		・久保川の改修について	8
公 園	1	・森林公園構想について	7
施 設 運 営	1	・公民館の駐車場について	3
都 市 計 画	1	・新河岸駅の駅前整備について	9
観 光	1	・観光対策について	1 1
そ の 他	2	・消防分署の設置について	3
		・地域の人材育成・活用について	4
計	1 6		

意見交換（要約）

《消防分署の設置、道路冠水対策、道路排水整備、公民館の駐車場》

意見 福原地区という地域は、有事の際には、高階分署さんと大東分署さんに対応していただいているわけです。人口も2万に迫ろうとしているところで、ぜひ消防分署をお願いしたいということが一点です。

もう一点は、松原地区の関越の下がよく水がたまるので、その件を対処していただければと思うわけでございます。

三点目ですが、これは川越県土整備事務所のエリアになるかと思いますが、所沢川越線が通ってしまっていて、通学路にだいぶ水たまりができてしまうわけです。反対側に県土整備さんに深い側溝をつくっていただいているわけですが、所々に土管を入れて、その深い側溝のほうへ流していただければ、変わるのかなと思っている次第でございます。

四点目は、出張所、公民館の駐車場ですが、拡張をお願いできればと思っております。

大野副市長 福原地区につきましては、ただいまおっしゃったとおり分署がございません。川越市は市街地を三つに区分しております。3地区につきましては、川越地区ということで、川島町が入っております。もう一つが霞ヶ関・名細地区で、その他の地区が第1地区ということです。この地区の署としましては、川越北署、それから南古谷分署、さらには川越中央消防署、それからその傘下の高階分署、大東分署になります。福原地区は、この第1地区の高階分署と大東分署が川越所沢線を境にいたしまして、それぞれ所轄をする形をとってございます。

分署の計画でございますが、中長期的な構想という中では高階分署の署昇格、あるいは福原地区への分署の設置が考えられますが、具体的な計画としては残念ながらございません。ただ、現有消防力の中で、国の言うところの基準消防力からいきますと、川越市全体で67%という状況で、第1地区が約71%ということですので、川越市の中ではそう低い位置ではないということはいえると思います。

現有消防力の充足率はどこも不足しております。多分日本で足りているというのは東京消防庁があるぐらいで、埼玉県では一つもないといったのが現状でございます。

充実したいという考えはありますが、なかなか財政的な面、質的な面で難しいところがございますので、埼玉県の場合、特にこの地区は協定を結んでおり、所沢、狭山といった近隣の消防は、何かあれば必ず応援に来ます。そのかわりこちらからも出ます。それをしないと現実的には守れないというのが実情でございます。

我々としても、平成19年度には消防の緊急通信施設の更新を行っており、特に119

番からの指令はだいぶ短縮しました。さらに救急出動に当たっては、GPS、地図情報の機能を活用して、最も近い場所にいる救急車を活用できるシステムを導入しているわけでございます。

おっしゃるとおり、消防力は充実しなければならないし、我々の望みではございますが、今後さらなる初動消防力の充実を推進させ、川島を含めた、川越地区消防全体の中のバランスあるいは財政状況、こういったものも勘案しながら今後さらに充実に努めてまいりたいと考えております。

染谷建設部長 関越の側道の水たまりのことについてでございます。市道 0051 号線が関越を横断するところと、南文化会館東側の道路を南に向かって、関越と交差するところかと思えます。

ここにつきましては、先月のゲリラ豪雨の際、車が一台水没してしまったという状況で、運転手さんからいろいろお話を伺いました。台風や、徐々に接近してくる雨については、市も対応できるわけですが、ゲリラ豪雨の場合は、突如として地域的に降るものですから、なかなか対応ができないというのが実情です。その運転手さんから、場所が暗くてよくわからない、看板はあるけれども、小さくてわからないというお話を伺いましたので、反射をするような看板をつけたり、反射する目盛りで水量を表したり、すぐ冠水してしまうような所には設置を多くしたり、それから、これは今後の研究課題なんです、冠水したら赤とか緑とか、そういう雨が降ってもよくわかるような看板の設置をしていきたいとは考えております。

それから、通学路の水たまりの関係ですが、ここはお話のように川越県土整備事務所管理の道路ですので、構造等を調査しながら、積極的に県土整備事務所をお願いをしていきたいと思えます。

有山教育総務部長 子育てサロンや、大きな団体が使うときには、駐車場が込んで満杯になってしまうというお話は伺っております。また、130 メートルちょっと離れてしまっていますが、福原スポーツパークにお願いしているというお話も聞いております。幾つかの公民館で駐車場の問題が出ておりますので、財政状況もあるのですが、どのぐらいの込み方なのかどうか、さらに検討させていただきたいと思っています。

《地域の人材育成・活用》

意見 何事も人によってよくもなるし、悪くもなります。したがって、人材の育成というのは非常に急を告げると思えます。特に地域における地域活動のリーダーの育成と活用、これは待ったなしの状態にあると思えます。

川越市には町内会並びに自治会を含めて 300 ぐらいあります。自治会なり町内会の人

材育成は、県レベルでも、あるいは市レベルでもノータッチの状態にあります。自治会だから市も遠慮していることもあろうと思います。資金不足の点もあろうと思います。しかし、やる気のある人間をつくらなくともうまくいかない。地域にはいろんなしがらみがございます。新旧住民の一体化というところも大きなポイントだと思います。

私も、知事なり市長なりにいろいろとご提言を申し上げております。人材の育成という観点から、総合政策部、市民部、都市計画部、教育委員会といったところに多面的に活動を起こしておりますが、いまいち問題意識が足りないと思います。

ぜひ地域活動のリーダーの育成、あるいは活用というところに焦点を当てて行政をやっていただくと非常に喜ばれるような気がいたします。

川合市長 貴重なご提言をありがとうございます。確かにそれぞれの地域が活性化するといいますか、強い結びつきのもとに地元の人が地元のために動いてくれるような体制ができたらとってもすばらしいと私も考えております。

自治会にはさまざまな形で行政にご協力をいただいておりますが、なかなか若い人たちが時間的に、あるいは仕事があるということで参加できないという問題がございます。そういう人たちも自治会に取り込んでいくような、うまい方法を市民の皆様方と一緒に考えていきたい。市民の皆様と協働でいろいろなこともやっていきたいと考えております。

それ以外にも、学校の子どもさんたちをサポートするようなこともやっておりますし、あるいは趣味のサークルを通じて地域の結びつきをつくっていただいて、趣味の段階から、地元のために動いてもらうというような方向にお願いするというのも一つの活性化ではないかと考えております。

いずれにしても、地元の皆様方が中心になっていただかなければならない、そういう分野でございますので、よく協議をしながら、今おっしゃられたような体制がつくっていただけるように頑張っていきたいと考えております。

有山教育総務部長 子どもサポート事業の関係で、一番進んでいる地区の実例でお話します。中学校が荒れまして、その校区では文化祭ができなかったのですが、自治会長さん、地区会議の会長さん、育成会長さんなど集まりまして、子どもたちのために何とかしてあげようということで、生涯学習課の展示パネルを設置してあげたり、片づけをあげたり、その間、子どもたちにはどういう展示をするかということで自主性を持たせた形でやって成功しています。

ただ、その成功にも、一つ難しさがあるのは、いい形でもそのボランティアを継続してくれる人がいないと疲れてしまう。理想に近い形ではあるのですが、子どもたちのた

めという観点から、1人のリーダーも大事ですけれども、全体の理解力を増すような形で取り組んでまいりたいと思っています。

継続的にその輪が広がり、これだったら協力できるという話が出てくる。そういう意味で教育委員会としては今後ともそのことにかかわっていきたいと思っています。

意見 参考情報という形で役所としても取り寄せていただきたいものがあります。自治体なり、あるいは自治会なり、地域再生の研究者が町内会あるいは自治会の新しい展開という研究論文を発表されています。

自治会の中は新旧入り乱れておりますが、いろんなトラブルの対応の仕方、古いしがらみなる仕組みを新しい時代に即したものに切りかえることなどの、規定とかモデルが出ております。ぜひご活用していただいて、少しでも川越市が、あるいは私たち生活者、住民もよくなっていくように仕向けていただければありがたいなと思います。

《ごみの山対策》

意見 ダイオキシンの暴露調査というのがありまして、それに平成10年から加わっております。ここに証拠写真がありますが、ごみの山が減らないんです。たびたび市役所に行きましたがナシのつぶてで、何にも返事がない。ただ見て回るだけです。

今度、新しい市長さんになられて私は本当にそれを期待しておるんですが、それをひとつ片づけていただきたい。

この川越の環境問題、これは12年からでしょう、私は10年からやっています。川越には33万の人間がいるというんですが、川越から出たのは私の家内と2人だけです。あとは三芳町、所沢、みんな出ました。大井も出ました。けども、川越は動いてくれません。何とかしていただかないと、ごみの山に子どもが上って遊ぶんです。人づくり、ものづくりも大切ですが、その根幹にあることをお願いしたいと思います。

小川環境部長 市内にはあちこちにごみの山がございます。一口にというのは難しい部分がございますけれども、現実には業者さんが建設廃材等を大分高く積んでいるというケースがほとんどでございますが、今のお話の関係は、個人の方が一定の場所に積まれている状況だと聞いております。

廃棄物につきましては、我々の一般的な認識ではごみという認識がありますけれども、その方たちの意識というのがなかなか我々の常識と合致しない部分がございまして、強制的に排除するというのが法律的には難しいという状況もございます。川越市は平成15年度に中核市になり、産業廃棄物関係の指導官庁になっております。それ以前の事例であるということも承知をしてございます。県から引き継ぎも受けておりますが、現状ではその現場に赴いて、調査をし、かつ当事者に適切に排除するよう指導を

しているという状況でございます。引き続き、こういった形で指導していくというのが現状の対応になります。

意見 それは前から聞いている話で、あの人は普通の人じゃないんです。市に税金を払っているから、俺はここに住んでいて構わないんだと言ってコンテナの中に住んでいる。あそこは電気が引けないんです。3メートル以上の建物は建たないんです。そういうふうにならざるに、その不法を見逃すからいけないんだと思いますよ。

私は、産業廃棄物のダイオキシンの暴露調査のときの中央の先生に、どうしたらこれはなくなるだろうかと聞いたんですよ。いや、これはなくならないと、川越から逃げなさいと言われた。それだけ川越というまちは恥知らずなんです。ですからこれからは、先頭に立った市長さんが号令をかけて、条例をつくってしっかりやっていただきたい。

川合市長 この問題についてつい最近知りましたが、個人が個人の土地の上に、ごみのようなものを山と積んでいるという状況だということですね。例えばそれが有毒ガスを発生して、周りの人に危害を及ぼす恐れがあるとか、具体的な危険がある、あるいは犯罪に当たるという場合以外は、原則として行政等が踏み込んで強制することは難しいのです。勧告というか、皆さんに迷惑だからよしなさいということは、今までも言ってきたようですよ、そういうことはやれるのですが、強制的にそれを移すとか、捨ててしまおうとか、そういうことは正直言ってなかなか難しいのです。

どういうことが可能なのか、これから私も含めて検討させていただきますが、今申し上げたように、できることの限界というのがございまして、今までもできる限りのことはやってきたと思うのですが、さらにできることがあるかどうか検討させていただきたいと思います。

《森林公園構想》

意見 森林公園構想について、今後の森林公園はどうなっていくのかなということが第一点です。それに付随いたしまして、その森林公園構想の真ん中に旧江戸街道が走っているわけなんです。森林公園が完成した青写真を見せていただいたときに、今福原からふじみ野市に通じる旧江戸街道をなくして、周遊道路をつけるような形の森林公園構想になっていたかと思うんです。住民としましては所沢街道に出るにも非常に不便になりますので、その点についてお聞かせ願いたいと思います。

鹿ノ戸都市計画部長 この計画につきましては、福原及び高階地区にまたがって残る武蔵野の雑木林を生かした、計画面積が約 40 ヘクタールの森林公園をつくらうということで、平成 15 年に基本構想、平成 16 年に基本計画をまとめてございます。計画地内にオオタカの営巣が確認されたことや、利用者の安全性を考えて、中を通っている道路に

外を回っていただくという計画にはなってございます。

ただ、計画面積 40 ヘクタールのうち、まだ 7 ヘクタールぐらいの用地買収しか済んでおりません。実施に当たりましては、また地域の皆様といろいろとご協議をさせていただきたいと思います。道路の関係については、担当からも聞いておりますので、ご理解いただきたいと思います。

《久保川の改修》

意見 私たちの住んでいる所は、大雨が降ると橋のところから水が出ちゃうんですね。というのは、橋の欄干にぶつかって、あふれた水が低い所に流れてくるんです。床下までは来ないんですけども、門の近くまでは来るんです。前に河川の担当の方が来て、不老川ができたならこちらに移るというご説明も伺っていましたので、橋の架け替えとか何かあるのかどうか、質問させていただきました。

染谷建設部長 久保川の橋ということでございますが、現在、新河岸川から不老川系統も浚渫や橋の架け替えもやっております。その中で、不老川が終わったら久保川にというお話でございます。

これにつきましては、今のところ何年からという計画はございませんが、当然不老川の浚渫をしないと、下流が完成形でないと水の流れがよくなるという状況でございますので、不老川が終わったらというか、何年に終わるということがわかりましたら、久保川のほうに随時進んでいきたいと思います。

《路上駐車対策》

意見 いなげやの通り、いちょう通りと言うんですけども、1 年前に川越市に意見として出させていただいた件で、不老川に接する所の道路が駐車場と化しているんですね。メールでお願いしましたら、建設部でしょうか、確認できましたのでわかりましたということだったんですが、今 1 年たって、余り変わってない、逆にふえているというような状況なんです。関越の下のようにポールを何本か立てていただければ、すぐ解決できた問題じゃないかなと思うんですが、もうちょっと足を使って現場を見ていただきたいなと思うんですが、いかがでしょうか。

染谷建設部長 新河岸駅前通り線の不老川の所までの話だと思います。今、この新河岸駅前通り線の受け皿にもなる、川越駅南大塚線という都市計画道路を積極的に進めています。新河岸駅前通り線は受け皿をつくってから進めていきたいと考えております。

意見 駐車の問題はどうでしょうか。

染谷建設部長 以前は何も置いてなくて自由に駐車できていたように思うのですが、今と同じようなご要望がありまして、家がありますから、交通止めにするわけにはいきま

さんの、通路として使うような形態にしたと思うのですが、今また駐車しているということですので、早速何か方策を考えていきたいと思います。

《新河岸駅の駅前整備》

意見 私も実は数年前からメールで、新河岸の駅前を何とかしてほしいということをやっと訴え続けております。高階小の前を、またいなげやから行く道も大変狭くて、特に雨の日の危険さというのはひどい状況です。

以前、高階の区画整理事務所の所長さんにも伺ったことがあるんですが、いなげやから駅前の所を道路が計画されているけれど、地権者問題で解決されない。新河岸駅の向こう側の口ができないのも、複雑に地権が絡んでいるので難しいんだということのご説明を受けました。状況は大変よくわかるんですが、同じように市県民税を納めている者としては、きれいになった観光地、西口のきれいな通りを見てしまいますと、あそこに家を買って損したなと思わせるようなまちづくりは避けてほしいなと思います。駅前の整備はどのように計画されているか、伺いたいと思います。

鹿ノ戸都市計画部長 新河岸の駅前につきましては、昭和 42 年に都市計画決定がされて、それから四十数年そのまま来たという状況でございますが、今、現地事務所も充実させまして、新河岸駅を中心に進んでいるところでございます。

具体的には、東口に関しましては、駅前広場用地、大体 3,000 平方メートルぐらいつく予定ですが、そのうちの 2,500 平方メートルはもう既に取得してございます。あと、西側に関しましては、現況の測量が終わりまして、今度は用地測量と言いまして、どの方にどういうふうにして買収させていただくか、もちろん相手のこともあるのですが、そういうことを、新河岸駅を中心に進めていく予定でございます。

《通学路の安全対策、発達障害の子ども達の教育》

意見 ふじみ野市立三角小学校は川越市民が半分近くを占めております。本来であれば福原小学校が校区なのですが、4 キロも離れておりますので、数年前に小学校も中学校も越境させていただいたという経緯がございます。上福岡から上赤坂のほうに向かうバス通りなんですけど、大変危険な中を、しかもすごい排気ガスの中を子どもたちが登校しております。川越市と旧大井町との境目の、しかも県道なので、川越市のほうからは何とも言えないということですが、ガードレールの切れ目のところで子どもが飛び出しそうになって危ないということがあります。

川越に本拠地のある、NPO 法人チューリップ元気の会という発達障害の子どもたちの会で、私も一応理事を務めさせていただいています。発達障害の子たちは、今やどこの小中学校にも 16 人に 1 人はいると言われております。残念ながら、三角小学校にも福原小

学校にも、そして福原中学校にも、特別支援学級がないんですね。こういった子どもが多いということで、川越高階分校も非常に倍率が高くなっています。普通学級にたくさんいる発達障害の子どもたちの教育を今後どのようにお考えか、ぜひお聞かせいただければと思います。

川合市長 道路整備の中で、通学路は最優先でやっていきたいと考えております。ただ、県道の場合は市から県に働きかけるというような手法しかないと思われますので、積極的に働きかけて、あるいは川越市がお金を出してやるのだったらいいよということであれば、極力子どもさんの安全を守るための方策は講じていきたいと考えております。

発達障害の問題ですが、チューリップ元気の会さんからも二度ほどお話を伺っておりまして、障害を持たれている子どもさんのためには、行政としてもできるだけことはやっていきたいという考えでございます。それは発達障害の方に限りませんが、動きとしては遅々とした動きにしか見えないかもしれませんが、少しずつでも進めていきたいと考えております。

《道路整備（水たまり対策）》

意見 うちのほうは産廃業者が多くて、道路状態が一番ひどいのかなと思います。30センチ以上も水がたまるようなところが何カ所もある状態なんです。ちょっと大雨が降ると、道路が川のようになります。道幅も狭く、舗装された道路面も縁石いっぱいまで舗装されていません。ひどいところは3分の2ぐらいしか舗装されてなくて、あとは砂利というか泥の状態で、道路幅いっぱいの舗装だけでもぜひ早急にしていいただければありがたいので、よろしくお願いします。

染谷建設部長 なぜ両脇を舗装しないで泥や砂利状態で残しておくかというお話ですが、実は、近くに水路や川があって、そこに通じる側溝等があれば、ぎりぎりまで舗装できるわけですが、お話の場所には雨水排水のための側溝がなく、地表から染み込ませるような形になっている場所だと思います。

地区の皆さんがそういうお考えであれば、生活道路の拡幅について自治会長さんとも相談してご要望をいただければ、その場所を見て対応していきたいと思います。

《道路整備（水たまり対策）》

意見 所沢街道のほうに向かって信号から関越の下までの200メートルぐらいの道路を直しましたが、その区間だけすごくひび割れて、くぼんでいます。そこは通学路になっていて、雨の日などはすごく気にしながら子どもたちは通学しています。今も穴があくと、市から回って来て、ちゃんとやってくれるんですが、それも1週間もたつと、また元の形に戻ってしまいます。

染谷建設部長 お話の場所につきましては、路盤が悪くて、幾ら舗装を直してもすぐまた穴があくというような状況だと思いますので、路盤から改良をやり直さなくてはならないと思います。今後よく精査しまして対応していきたいと考えております。

《観光対策》

意見 この文化会館から出ているシャトルバスを利用しておりますけれども、西武も東武も非常に運転手さんの対応がいいですね。乗り降りに注意していただけるので大変ありがたいと思っております。

最近川越は観光でだいぶにぎやかになっておりまして、ほとんどの方が観光バスでいらっしゃると思うんですが、バスの運転手さんによっては、蔵の町を通って行きますよと詳しく言ってくれる人もいれば、黙って、発車と言って発車しちゃう人もいます。観光で名を売っている川越市としては、バスの運転手さんも川越の窓口として、もうちょっと親切な対応をしていただければいいと思うんです。

やはり我々市民一人一人がおもてなしの心を持っていかないと、川越、何やってるんだという感じにもなるので、観光課から運転手の教育を少しやってほしいという要望ができればという感じを受けたので、ご要望としてお伝えしておきたいと思います。

川合市長 おっしゃるとおりだと私も思っております。この3月からの「つばさ」の放映に合わせて観光客がふえるであろうということで、来ていただいた観光客の方に、良い印象を持って帰っていただいて、また川越に行きたいと思ってほしいということもありまして、おもてなしの心を持って接していただきたいという方向で、観光協会やバス会社、あるいはタクシー会社などにもお願いしているはずですが、まだ足りないという状況のようですので、いろいろ働きかけをしていきたいと思います。

《通学路の安全対策》

意見 市道 6420 号線、昨年拡幅されました道路ですが、入り口と出口は狭くなっておりますので、そこはみな車がスピードを落とすんですけれども、その間がかなり広くなりましたものですから、かなりなスピードで通ります。出口のほうに、学童注意と路面に標示してあるところが一カ所ございます。あと、30 キロ規制という箇所が入り口と出口のところに2カ所ございます。

それで、お願いですが、6420 号線というのは、0051 号線と接しておりまして、そこから 6420 号線のほうに移るところにゼブラゾーンをつくっていただくとか、グリーンベルト帯をつくっていただくとか、ガードレールをつくっていただくとか、何か学童の安全のために方策を講じていただけたらありがたいなと思います。

染谷建設部長 ここの場所につきましては、0051 号線と 6420 号線の交差部が、ちょう

ど三角形の頂点のようなところで、道路の交差というのは、昔は鋭角的な交差でもよかったのですが、現在はなるべく直角に当たるようにということで、角の林をカーブして、なるべく直角に当てるようにして道路をつくったような経緯がございます。

それから、高階西小の南側にも道路がありまして、交差点の当たるところが変則四差路というような形になっていると思うのですが、警察とも協議した中で今の状況になってございます。ただ、通学路の安全確保のため何か方策をとということでございますので、現地を確認しまして、安全な方策があるかどうか、今後検討していきたいと思います。

それから、反対の尚美学園のほう、五差路の辺につきましても、十字路に斜めに入っていくような交差点になってしまいますので、当初は広いまま道路に接続しようかと考えていたのですが、信号処理の関係など、いろいろ警察と協議した中で現在の形になってございます。ここについても通学路で危ないということですので、現地を確認させていただきまして、警察とも協議いたしまして、何かいい方策があれば検討していきたいと思います。